

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷		
所在地	北海道北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成23年12月2日	評価結果市町村受理日	平成24年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191300029&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様を中心とした家事参加やレクリエーション、外出など心のケアを重んじスタッフが一緒に関わりながら生活のサポートを行うように心掛けている。地域や町内会の大きな協力もあり行事や避難訓練の参加を通しての交流、理解を得ることができ、今後ますます得られるように取り組んでいる。地域の小学校や老人クラブとの交流もあり、建物自体が通学路に面していることから入居者様と小学生、近隣住民との挨拶は元より運動会や学芸会見学参加、小学生がホームでの体験学習を行う等の交流ができるようになっている。スタッフ配置として家庭の主婦が多く20代～70代と全年齢層、男性女性が揃っており幅広いことから半家族的で家庭的な雰囲気や環境作りに努めている。ご家族様の他ご友人の面会も多く、それに伴い外出や外泊も多く見られている。またホームとしてとても有難く感じており、ますます来やすい雰囲気作りに励んでいきたいと思っている。母体が医療法人の為、医療に関して24時間365日対応を行っており、状況に応じて入院対応を行っているので、ご家族様から安心の声を多く頂いている。当グループホームは他事業所(通所介護・居宅介護支援事業所)と併設されており複合施設の中にある利点から、事業所間での連携が日々あり、利用者様・入居者様の社会交流の場として活用されている。認知症という一般的な偏見が通所サービスの利用者様、そのご家族、地域住民の方々を通し緩和され理解されつつある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム共栄の郷は、医療法人が母体で、建物にはデイサービスと居宅介護の施設が併設されている。外出が不足する時期には隣接したデイサービスを訪問したり、餅つき行事に呼ばれる等の交流があり、デイサービスの休日には浴室を借りたり、行事用にワゴン車を借りることができる等、併設事業所の利点を最大限に活用している。職員の理念に対する理解度が高く、理念を実践の場で確認しながら良質なケアサービスを実践している。地域との交流が盛んで、町内会行事に積極的に参加し、小学校の運動会や学芸会を見学したりしている。また併設事業所合同でのバーベキューには、地域の方々が大勢参加している。市との連携も盛んで、地域包括支援センターを頻繁に訪問して情報を交換し、複数の小学校の車椅子体験学習に協力している。母体が医療法人であることから医療体制が充実しており、月2回の訪問診療に加えて定期検診、365日、24時間対応の体制が整っているため利用者と家族の安心感強い。利用者の馴染みの人々や場との関係を継続させるために、友人・知人の訪問を歓迎しており、多くの方々が利用者を訪ねてくれる。友人に誘われてコンサートやカラオケに出掛けたり、友人宅に泊ってくる利用者もいる。職員の言葉遣いが丁寧で優しく、一人ひとりの個性に合わせた言葉遣いを工夫し、優しく接しているため、利用者の表情は明るく、ゆったりと毎日の生活を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(1Fいぶきアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時にオリエンテーションを必ず行い理念を説明している又職員がいつでも確認出来るよう掲示している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をパンフレットや共用空間に掲げているほか、職員が首から下げている名札の裏側に印刷された理念カードが入っていて常に確認できるようになっている。職員は理念を良く理解し、日常のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し、町内会主催の夏祭り参加や小学校の運動会、学芸会見学参加、ホーム主催のバーベキュー行事に地域住民参加、小学生のホームでの体験学習実施など具体的に交流が持てるようになっている。	町内会の「花いっぱい運動」に職員が参加している。事業所主催のバーベキューには、職員が近所を訪問し案内状を手渡している。また、地域ボランティアが南京玉すだれやハーモニカ演奏を披露してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの日々の出来事を新聞として毎月発行し家族、他事業所に配布している。その他運営推進会議にも用いて、エピソードを交えながら説明を行い理解が得られるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月発行している新聞を下に入居者様の状況、活動報告等を行い、活動に対しての評価、助言、ご協力を頂きながら意見交換の場としても活用している。	町内会長、老人クラブ会長、民生委員、市の職員、地域包括支援センター職員、家族等が参加して活発に意見交換している。自己評価・外部評価についても話し合い、議事録も全家族宛に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、GH連絡会等で相談、アドバイスを担当者から頂いている又市からの連絡事項などはメールでやり取りを行っている。	月に4・5回、センター長或いは副センター長が地域包括支援センターを訪問しているほか、市内の複数の小学校から車椅子の体験学習を依頼され協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルでの把握、研修会の参加で知識を深め、拘束を行わない様努めている。また日々のケアの中で疑問時、必要時は随時検討の場を設け取り組んでいる。	法人の身体拘束防止委員会が主催する研修があり、職員が毎年参加している。国道に面している等の事情から玄関の内側のドアは施錠しているが、鍵の置き場所がドアのすぐ近くで、利用者が外出したい時は、スムーズに職員が対応できる状態である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部研修等の参加により虐待防止に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度の言葉は耳にしているが、実際の詳細内容については把握されておらず、現在該当者はいない。今後機会があれば研修に参加し知識を学び、必要時に活用し支援できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約書・重要事項説明書に沿った説明を行い、都度疑問、質問に答え確認しながら判り易く説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求書送付時ご意見用紙を同封し法人内の苦情対策委員会当てまで送付出来るようにしている又玄関先にご意見箱を設置している。	家族が頻繁に訪問してくれるので、その都度管理者や職員が話掛けたり意見を聞いている。また、意見用紙の郵送や意見箱設置等の仕組みは整っているが、今後は更にきめ細やかな対応をしていきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、リーダーミーティングの機会を設け意見交換や、提案を受け検討、反映に繋げていけるよう努めている。	ユニット会議、リーダーミーティングを定期的に行い、意見交換している。全体ミーティングを定期的に開催することが現状では難しいため、朝夕2回の申し送りを2つのユニットが合同で行い、お互いの状況がわかるようにしている。管理者が同席できない時は「申し送りシート」を活用し状況を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績、努力について半年毎に行っている職員自己評価、目標設定、職員評価に基づき把握に努めている。給与水準、労働時間は法人との連携を図り行っている。また、職員が働き易いように状況に応じて随時面接を行い職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会は定期的に行っているため職員がまんべんなく参加出来るようにシフトを調整し、促しを行い外部の研修にも参加出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回定期で会議を開き、情報交換、活動報告を行っている。2カ月に1度市内のGH連絡会で他同業者との意見交換、勉強会などの情報交換を行いサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を必ず行い困りごと、不安な事を傾聴、若しくは様子観察を行い顔見知りの関係を築いてから入居受け入れしている。また入居後も安心して暮らせるよう傾聴や様子観察に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人同様ご家族とも面談を必ず行い、相談の時点から困っている事、不安、要望を傾聴し、ご家族との関係が良い方向でスムーズになるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ず面談を行い今現在困っていることの把握に努め、複合施設内の事業所、法人内にある老健、病院等と連携を図り支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員共に家事全般調理、掃除、洗濯、買い物等一緒に行い、助け合いながら生活していけるように、入居者様には手伝って頂いた後は必ずお礼、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のケアの中で状態変化が見られた時は家族に報告、相談を行っている。又面会時は職員から生活状況をお伝えすることにより、家族が話しやすい雰囲気を作れるよう努めている。また家族より生活歴を伺うことで対応のヒントに繋がることが自然に出来るようになっていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人など身近で馴染みであった方が面会に来て下さることがご本人の安心に繋がることの説明をしている。行きつけの洋品店やお店など、要望があった時はなるべく随時対応できるように努めている。	利用者の友人・知人が訪問してくれたときは、居室に案内しお茶を出してゆっくり話ができるように配慮している。友人が誘いに来てコンサートやカラオケに出掛けたり、友人宅に泊ってくる利用者もいる。また、家族の協力を得てお墓参りや法事に出掛ける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各個人の性格、状態を把握し会話が苦手な方には職員が間に入りコミュニケーションがスムーズに図れるよう努めている。又入居者様同士で良い人間関係が築けるよう様子観察を行い、職員がフォロー出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人のソーシャルワーカーとも連携を図り退去後も、本人、家族が困らない様相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望、意向には努めており、困難な場合は家族とも相談し出来るだけ本人が満足できるよう支援を行っている。	利用者が言葉で思いや希望を表出できない場合は、声掛けを工夫して反応を見たり、表情やしぐさから思いを把握している。また、アセスメントシートを活用して職員間で情報の共有を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時、家族が面会に来られた時、日常の会話の中から生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察を通し把握に努め、必要随時のミーティングの中で職員間の情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的又は状態変化時、モニタリング、カンファレンスを開き又家族の希望、要望を取り入れながら介護計画を作成している。	サービス担当者会議で職員と話し合いながら、介護計画を3ヶ月毎に見直ししているが、介護計画作成の主体は計画作成担当者である管理者であり、職員の関わりが少ない状況である。昨年、実践者研修に3名の職員が参加したことから、一部職員の理解が進んでいる段階である。	今後は、管理者や実践者研修を受講した職員を中心に、定期会議の際に勉強会を行う等、介護計画への理解を深め、全職員が介護計画に主体的に係わっていくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録に記録し毎日のミーティングで報告、職員間で情報は共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多くのニーズに対応出来るよう、併設のデイサービス、リハビリの専門職、主治医との連携を図り対応していけるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	囲碁、楽器演奏等のボランティア、デイの利用者様との交流、町内会行事参加、小学校との交流などを通して豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療の他、定期的な検査、身体的状態変化時は24時間対応で適切な指示が受けられ、安心して暮らせるよう支援している。又契約前にご家族、ご本人に説明を行い、了承を受けている。	事業所の経営母体が医療法人であり医療体制が充実していることから、全利用者が法人の医療機関をかかりつけ医としている。医療情報は、医療機関からの「受診連絡表」で共有されている。	

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的状態変化が見られた時はかかりつけ医の看護師、併設事業所の看護師と連携を図り24時間、適切な指示を受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書、情報提供書の提供又面会等で本人の状態を看護師、ソーシャルワーカーに確認し情報交換、相談がスムーズに出来るよう努めている。家族との連絡、相談も行い出来るだけ早期に退院出来るよう、安心して治療が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結前に書面でご本人、ご家族には説明しているがまだ該当者がいない為地域の関係者と共にチームで取り組むまでは行えていない。	重要事項説明書の中に「重度化に関する対応指針」が組み込まれており、利用開始時に利用者・家族等に説明し納得を得た上で同意書を交わしている。状況が変化した際は、担当医師を交えて相談し説明・対応している。現状では看取りの経験はまだ無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網等の作成はできている。緊急時対応としての研修には参加しているが全職員が実践力を身に付けているまでには至っていない。今後、全職員が対応できるよう勉強会、訓練を行っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設内事業所と共に日中想定避難訓練、夜間想定避難訓練、部分訓練、消防署主催の夜間想定避難訓練参加も行い努めている。地域からは避難場所や避難時グッズ等の提供や訓練参加があり協力体制が築けている。	併設事業所と合同の昼・夜間想定避難訓練時には地域の方々に多数参加してもらっており、防災訓練マニュアルも整備され、救急救命訓練も行われている。災害用の備品については、町内会館で用意してもらっているが、現在、事業所独自で用意するものを検討中である。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様に合わせ人格を否定しないよう配慮した言葉かけを行うよう職員間で意識し対応するよう努めている。	利用者への呼び掛けは名字か名前に「さん」付けし、生活歴によって敬語を使い分ける工夫もしている。個人記録等は事務所スペースに安全に保管し、記録時に離席する際はファイルを閉じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自己決定や意思表示が表出できるように個々の特徴を捉え向き合い対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日入居者様に合わせて業務を調整するよう努めているが、どうしても業務を行わなければならない時は入居者様に説明、断りを入れ後日又は時間をずらし希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の特徴を捉え本人好みの髪型、服装、色等が自由に着れるよう支援している。生活習慣で化粧水や整髪剤を使用している方には継続し、職員間でも情報共有し声掛けや促しを行っている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材も配達されメニューも決まっているが、食材確認、収納、準備から片付けまで一緒に取り組んでいる。またメニューのリクエストが出た時は状況に応じてメニュー変更を行い買物から一緒に対応している。	献立は法人の管理栄養士による統一メニューだが、誕生日や行事の際には利用者に希望を聞き一緒にメニューを考えている。調理や配膳を手伝う方もいる。利用者と職員が会話しながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通しての摂取、飲水量がわかるように記録に記入している。また個々の好みに対応できるよう飲み物の種類を多くし、好きな時に自分で入れて飲めるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回入居者様の状態に合わせた声掛け、促しで口腔ケアを行っている。また訪問歯科の定期検診により口腔内チェックも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し個々の特徴や状態に合った声かけや介助を行うように努めている。	排泄チェック表でパターンを把握し、プライバシーに配慮しつつ本人が理解できるような誘導をしている。夜間に念のためオムツを利用している方もいるが、ほぼ全員がトイレで排泄することができている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の排便パターンの把握に努め、水分、食物繊維、乳酸類の提供、毎日の体操、生活の中の運動促進等を行い便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人数の関係で大体の入浴時間は決まっているが午前中、夕方など本人の気分や状況に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	毎日入浴が可能で、午後の時間帯を中心に各利用者が週2回程度の入浴を行っており、毎日入浴する方もいる。拒否がある場合も、本人が納得できるような声掛けをしており、入浴剤の使用等も工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで生活出来るよう、休みたい時には自室やリビングなど場所にとらわれず休めるように、就寝前は穏やかなコミュニケーションを図り、夜間は電気を落とし静かな雰囲気での良眠出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	顔写真入りの薬説明書を作成し、職員一人一人が服用している薬、副作用の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、趣味を把握し家事、レク、外出、買物等の支援に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1Fいぶき)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望に応じて外出できるよう努めているが、天候や状況により翌日等にずれる時がある。普段行けないような場所については普段の会話から行きたい場所等を伺い、面会時ご家族に説明、了承を得てから外出を行っている。	日常的には、事業所で借りている近くの畑や小学校付近、パークゴルフ場等へ散歩に出掛けている。併設する関連施設の車を利用することができ、大型スーパーでの買い物やコーヒーショップに出掛けたり、年間行事で花見や森林浴、紅葉狩り、初詣等に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者様はご家族と相談の上、自己管理して頂いている。普段金銭管理していなくても外出時レジでの支払い、お釣りの受け取りが可能な場合はお財布を持って頂き使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からは遠慮があつてなかなか言い出せない場合がほとんどの為、職員から声掛けや促しを行うよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物が乱雑にならないように配慮し、常に清潔を保持できるように心掛けている。皆が集うリビングでは一緒にテレビが見易く談話し易い家具配置を工夫している。季節ごとに花を飾ったりして居心地良く過ごせるように工夫している。	リビング兼食堂は日当たりが良く開放的で、トイレや浴室も使いやすく造られており、温度や湿度も調整されている。壁には手作りのポスターや行事での写真が飾られ、親しみやすい雰囲気となっている。土日には併設のデイサービスの施設も活用して楽しみごとを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルでは気の合うもの同士が座れるよう、ソファではゆっくり新聞が読めたり横になれるよう、台所は間口を広くし家事の作業台を置き入居者様を使いやすいよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に馴染みの家具、持ち物を持参されるよう伝え、本人が落ち着ける居室で過ごせるよう支援している。	居室には利用者が持ち込んだ家具やテレビ、仏壇等が自由に置かれ、居心地良く過ごせる場所となっている。壁にもカレンダーや写真が飾られており、部屋の入口には法人からプレゼントされた立派な表札が掲げられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を付け、トイレの鍵は判りやすいように、開ける閉めると表示、ドアは開けやすいように引き戸になっている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300029		
法人名	医療法人やわらぎ		
事業所名	グループホーム共栄の郷		
所在地	北海道北広島市共栄町4丁目11-1		
自己評価作成日	平成23年12月2日	評価結果市町村受理日	平成24年3月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0191300029&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1Fいぶき」に同じ

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2Fうらら アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時にオリエンテーションを必ず行い理念を説明している又職員がいつでも確認出来るよう掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し、町内会主催の夏祭り参加や小学校の運動会、学芸会見学参加、ホーム主催のバーベキュー行事に地域住民参加、小学生のホームでの体験学習実施など具体的に交流が持てるようになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの日々の出来事を新聞として毎月発行し家族、他事業所に配布している。その他運営推進会議にも用いて、エピソードを交えながら説明を行い理解が得られるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月発行している新聞を下に入居者様の状況、活動報告等を行い、活動に対しての評価、助言、ご協力を頂きながら意見交換の場としても活用している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、GH連絡会等で相談、アドバイスを担当者から頂いている又市からの連絡事項などはメールでやり取りを行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルでの把握、研修会の参加で知識を深め、拘束を行わない様努めている。また日々のケアの中で疑問時、必要時は随時検討の場を設け取り組み早めに対応することで拘束しないケアに繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や外部研修等の参加により虐待防止に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度の言葉は耳にしているが、実際の詳細内容については把握されておらず、現在該当者はいない。今後機会があれば研修に参加し知識を学び、必要時に活用し支援できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約書・重要事項説明書に沿った説明を行い、都度疑問、質問に答え確認しながら判り易く説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求書送付時ご意見用紙を同封し法人内の苦情対策委員会宛てまで送付出来るようにしている。また玄関先にご意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、リーダーミーティングの機会を設け意見交換や、提案を受け検討、反映に繋げていけるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の実績、努力について半年毎に行っている職員自己評価、目標設定、職員評価に基づき把握に努めている。給与水準、労働時間は法人との連携を図り行っている。また、職員が働き易いように状況に応じて随時面接を行い職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会は定期的に行っているため職員がまんべんなく参加出来るようにシフトを調整し、促しを行い外部の研修にも参加出来るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回定期で会議を開き、情報交換、活動報告を行っている。2ヵ月に1度市内のGH連絡会で他同業者との意見交換、勉強会などの情報交換を行いサービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面談を必ず行い困りごと、不安な事を傾聴、若しくは様子観察を行い顔見知りの関係を築いてから入居受け入れしている。また入居後も安心して暮らせるよう傾聴や様子観察に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人同様ご家族とも面談を必ず行い、相談の時点から困っている事、不安、要望を傾聴し、ご家族との関係が良い方向でスムーズになるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に必ず面談を行い今現在困っていることの把握に努め、複合施設内の事業所、法人内にある老健、病院等と連携を図り支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者、職員共に家事全般調理、掃除、洗濯、買い物等一緒に行い、助け合いながら生活していけるように、入居者様には手伝って頂いた後は必ずお礼、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のケアの中で状態変化が見られた時は家族に報告、相談を行っている。又面会時は職員から生活状況をお伝えすることにより、家族が話しやすい雰囲気を作れるよう努めている。また家族より生活歴を伺うことで対応のヒントに繋がることが自然に出来るようになっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人など身近で馴染みであった方が面会に来て下さることや馴染みの場所に外出することがご本人の安心に繋がることの説明をしている。外出の要望があった時はなるべく随時対応できるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各個人の性格、状態を把握し会話が苦手な方には職員が間に入りコミュニケーションがスムーズに図れるよう努めている。又入居者様同士で良い人間関係が築けるよう様子観察を行い、職員がフォロー出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人のソーシャルワーカーとも連携を図り退去後も、本人、家族が困らない様相談、支援に努めている。退去後お亡くなりになった方の弔問にも参加している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの希望、意向には努めており、困難な場合は家族とも相談し出来るだけ本人が満足できるよう支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時、家族が面会に来られた時、日常の会話の中から生活歴、馴染みの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子観察を通し把握に努め、必要随時のミーティングの中で職員間の情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的又は状態変化時、モニタリング、カンファレンスを開き又家族の希望、要望を取り入れながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は生活記録に記録し毎日のミーティングで報告、職員間で情報は共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多くのニーズに対応出来るよう、併設のデイサービス、リハビリの専門職、主治医との連携を図り対応していけるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	囲碁、楽器演奏等のボランティア、デイの利用者様との交流、町内会行事参加、小学校との交流などを通し豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療の他、定期的な検査、身体的状態変化時は24時間対応で適切な指示が受けられ、安心して暮らせるよう支援している。又契約前にご家族、ご本人に説明を行い、了承を受けている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体的状態変化が見られた時はかかりつけ医の看護師、併設事業所の看護師と連携を図り24時間、適切な指示を受けれるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書、情報提供書の提供又面会等で本人の状態を看護師、ソーシャルワーカーに確認し情報交換、相談がスムーズに出来るよう努めている。家族との連絡、相談も行い出来るだけ早期に退院出来るよう、安心して治療が出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結前に書面でご本人、ご家族には説明しているがまだ該当者がいない為地域の関係者と共にチームで取り組むまでは行えていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル、緊急連絡網等の作成はできている。緊急時対応としての研修には参加しているが全職員が実践力を身に付けているまでには至っていない。今後、全職員が対応できるよう勉強会、訓練を行っていききたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合施設内事業所と共に日中想定避難訓練、夜間想定避難訓練、部分訓練、消防署主催の夜間想定避難訓練参加も行い努めている。地域からは避難場所や避難時グッズ等の提供や訓練参加があり協力体制が築けている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様に合わせ人格を否定しないよう配慮した言葉かけを行うよう職員間で意識し対応するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自己決定や意思表示が表出できるように個々の特徴を捉え向き合い対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日入居者様に合わせて業務を調整するよう努めているが、どうしても業務を行わなければならない時は入居者様に説明、断りを入れ後日又は時間をずらし希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の特徴を捉え本人好みの髪型、服装、色等が自由に着れるよう支援している。生活習慣で化粧水や整髪剤を使用している方には継続し、職員間でも情報共有し声掛けや促しを行っている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材も配達されメニューも決まっているが、食材確認、収納、準備から片付けまで一緒に取り組んでいる。またメニューのリクエストが出た時は状況に応じてメニュー変更を行い買物から一緒に対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通しての摂取、飲水量がわかるように記録に記入している。また個々の好みに対応できるよう飲み物の種類を多くし、好きな時に自分で入れて飲めるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後3回入居者様の状態に合わせた声掛け、促しで口腔ケアを行っている。また訪問歯科の定期検診により口腔内チェックも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し個々の特徴や状態に合った声かけや介助を行うように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の排便パターンの把握に努め、水分、食物繊維、乳酸類の提供、毎日の体操、生活の中の運動促進等を行い便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の人数の関係で大体の入浴時間は決まっているが午前中、夕方など本人の気分や状況に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースで生活出来るよう、休みたい時には自室やリビングなど場所にとらわれず休めるように、就寝前は穏やかなコミュニケーションを図り、夜間は電気を落とし静かな雰囲気での良眠出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	顔写真入りの薬説明書を作成し、職員一人一人が服用している薬、副作用の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、趣味を把握し家事、レク、外出、買物等の支援に努めている。		

グループホーム 共栄の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fうらら)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の要望に応じて外出できるよう努めているが、天候や状況により翌日等にずれる時がある。普段行けないような場所については普段の会話から行きたい場所等を伺い、面会時ご家族に説明、了承を得てから外出を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる入居者様はご家族と相談の上、自己管理して頂いている。普段金銭管理していても外出時レジでの支払い、お釣りの受け取りが可能な場合はお財布を持って頂き使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からは遠慮があってなかなか言い出せない場合がほとんどの為、職員から声掛けや促しを行うよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	物が乱雑にならないように配慮し、常に清潔を保持できるように心掛けている。季節を感じれるよう手作りカレンダーを入居様中心に作成している。皆が集うリビングには季節ごとに花を飾ったりして居心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルでは気の合うもの同士が座れるよう、ソファではゆっくり新聞が読めるよう配置している。台所は間口を広くし入居者様が使いやすいよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に馴染みの家具、持ち物を持参されるよう伝え、本人が落ち着ける居室で過ごせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札を付け、トイレの鍵は判りやすいように、開ける閉めると表示、ドアは開けやすいように引き戸になっている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 共栄の郷

作成日：平成 24年 2月 10日

市町村受理日：平成 24年 3月 22日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	26	サービス担当者会議で職員と話し合いながら、介護計画を3ヶ月毎に見直しているが、介護計画作成主体は計画作成担当者である管理者であり、職員の関わりが少ない状況である。昨年、実践者研修に3名の職員が参加したことから、一部職員の理解が進んでいる段階である。	ケアプランの理解を深め、ケアに関する気付きを養う。 1. スタッフがケアマネジメントについて理解し関わりながら統一されたケアを行っていく。また職員が入居者様にとってということを意識しながら支援していくことができるようになる。	①ケアプランの基礎知識の研修を行う。 ②入居者様に対して担当者を決め意識付けを行う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。